

R. I. District2610, ROTARY CLUB OB UOZU

魚津ロータリークラブ会報誌

2011-2012年度 RI会長 カルヤン・バネルジー
2011-2012年度 魚津RC会長 寺崎 明博



2012-3-23

第2818回 魚津西ロータリー交換卓話 例会報告

- (1) 点鐘・握手
- (2) ロータリーソング 「我等の生業」
- (3) ゲスト並びにビジターの紹介
・魚津西ロータリーエレクト 横谷 正晴氏
- (4) 誕生祝



・3月26日 生駒 晴俊さん

皆さん、こんにちは！ 誕生日を祝って頂きましてありがとうございます。77歳になります。じつは2月20日ホテルへ行く時転倒しました。すぐ労災で精密検査をしました。幸い異常がありませんでした。しかし2週間程前、突然激痛が走りました、いろいろ手当てを致しましたが現在ふくらはぎが痛く、毎晩寝れないくらいです。77歳の回復力で生きています。



・3月26日 辻 英晴さん

こんにちは、私の誕生日を祝って頂きましてありがとうございます。55歳になりました。昭和32年3月26日生まれで、3と2の数字に縁があります。子供にも3と2の数字が多く有ります。不思議なご縁を感じます。ロータリーに入らせて頂いて、同じ3月26日生まれの先輩がおいでですので、特に立派な方がおられますので嬉しく思っています。ありがとうございました。

- (5) ポールハリス・フェローの認定証の贈呈 中川 正昭さん

- (6) 会長挨拶 寺崎 明博会長



みなさん、こんにちは！今日は西クラブの横谷さんようこそお出でいただきました。卓話よろしくお願ひします。生駒さん、辻さん誕生日おめでとうございます。

さて、雪も随分消えました。私は今朝5時に目が覚めました。窓から海を見ると海に灯かりがついていました。また5時15分頃枕元で「キンキンー」と雉鳥がふた声鳴きました。森の奥からも「キンキンー」とふた声、別の雉鳥が応えて鳴きました。カラスも「カーア・カーア」と鳴きました。正に春を実感しました。

私も何かをしなければならぬと決し、起きました。深呼吸をすると春の季節の香りがしました。

私は、これから始まるんだという清々しい、強い気持ちになりました。

皆さん！頑張りましょう！

- (7) 幹事報告

- ・米山梅吉記念館より館報、賛助会入会お願い
- ・魚津市交通センターより春の全国交通安全運動の祈願祭及び出発式のご案内

- (8) 出席報告

- ・本日の出席 30名 出席率 85.71% 欠席者 5名 メークアップ済 須河さん
- ・2816回のメークアップはなしで修正出席率は 68.57%変わらずです。

- (9) ニコボックスの紹介

- ・山澤 正和さんより長期欠席すみませんでした。



(10) 委員会報告

- ・ロータリー友情交換（釜山釜一RC友情交換）委員会 武隈 博信委員長
4月6日より8日まで釜一へ出かけます。集合場所がサンルート裏に変更になりました。午前8時15分に出発します。また海外旅行保険に出来れば加入して下さい。楽しく「釜一RCの20周年記念」を祝ってきましょう。



- ・広報委員会の「ロータリーの友」の紹介 中川 正昭さん
格調高く紹介します。

①横書1ページ

RI カルヤン・バネルジー会長のメッセージに、持続可能の奉仕をするにはニーズをよく知ることが必要であると述べられています。

②横書55ページ

ウィリアムB・ボイドロータリー財団管理委員長の思いが記載されています。

「一人では実現出来なくても、力を合わせれば変化をすることが出来る」と記されています。

③3月は識字向上月間です。3月2日に炭谷亮一ガバナーに来ていただき「識字率と教養」と題し卓話を頂きました。それに関連した記事が5ページより9ページに渡って載っています。

④14ページより21ページに衝撃的そしてびっくりした写真が載っています。非常時に何を持ち出すかとの質問に、写真をと答える人が多かったといわれています。写真を大切に！

⑤24ページには、「薬都とやまから仮設住宅へ家庭用配置薬の支援」として富山シティロータリークラブの奉仕活動が報道されています。

以上紹介を終わります。



(11) 交換卓話 「自己紹介」 魚津西ロータリークラブ会長エレクト 横谷 正晴様



戦前より魚津で呉服の商売を始め、戦後は地方問屋として営業活動を行っていましたが、平成22年1月より、京都室町の製作問屋のあとを引き継ぎ、その会社の元社員にも、横谷商店に入社してもらい、本格的に京都で呉服製作に乗り出しました。平成22年度中は、ほとんど製作に集中し、平成23年4月によく京都産業会館にて全国の小売店、地方問屋様に我が社の製作した商品を見ていただくことができ、また来場していただいた皆様方に本当に喜んでいただきました。

この成功は、協力していただいた元の会社の製造、営業の方々、染屋さん、作家さんなど、たくさんの皆さんの協力の賜物と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その後もその気持ちを持って製作、営業活動を行っております。

そして、元の会社の亡くなられた創業者で会長の言葉が私の経営姿勢になっています。

「石酔」 は私の経営姿勢、人生観

石の魅力に気づいてもうずいぶん久しくなります。この世のものはほとんど変化していきますが、石はいつまでも同じ姿で私に語りかけてくれます。歴史や年輪の重みもさることながら、じっくりとながめるとなにか心が洗われるような気がするのです。

そこで本社を建設するとき、自分なりに選んだ石で庭をつくり、

「石酔」と名付け庵を設置しました。

石に酔う心、これは人生にも仕事にも通じます。人を裏切らず、ひたすら心の安らぎを求める・・・そういう心根を私は好きです。

当社のものでつくりもそういう姿勢を貫き通しています。本当に着物のよさをわかっていただけの方に買っていただきたい。・・・けっして無理に拡大しない、自分の満足できる商品を作りたい・・・いささか古いようですが、これが私の信条なのです。そして人生においても私はそういう生き方を貫きたいと思っています。

今現在、「洛松」というブランドで製作、販売していますが洛松のコンセプトは「唯一無二」 生地のごだわり、熟練の染と縫いと織で時間をかけて独創的な作品

作りを目指しています。

着物の好きな方に喜んでいただける作品作りをしています。

今日は京縫の伝統工芸師 加藤 月雪先生の作品を持ってきました。昭和38年お父さんが大覚寺に奉納されたもの（レプリカ）です。伝統産業の技術力の高さがお分かりと思います。無理にお願いして、先生から借りてきました。般若心経が刺繍されています。皆さん見てください。

今日はありがとうございました。

あとがき

・自然には人間の常識が通用しないことが多くあります。

昨年3月11日、東北地方に大地震がありました。それに伴い大津波が襲ってきました。その時の気象庁の津波予報が問題でした。それでも6mの津波予報は常識を超える範囲であったと思います。事実は結果論ですが20mとも30mとも言われ、多くの常識が壊れ、多くの悲劇が生まれました。原発事故も同じことです。

当地も「暑さ寒さも彼岸まで」と常識がありますが、現実にはまだ雪が降り、気温がマイナスになる日々が続いています。ジャガイモを植える時期がきているのに植えることが出来ない状況です。

これらの常識とは自然に対する人間のおごりなのでしょうか。

自然の力を謙虚に受け止め、素直な心で生きたいものです。

「晴れてもよし 曇りてもよし 富士の山 もとの姿は 変わらざりけり」（勝 海舟詠）

「この秋は 雨か嵐か知らねども 今日勤めに 田の草をとる」（二宮 尊徳詠）